

「多摩市におけるこれからの社会教育施設のあり方について」

— 社会教育施設利用の活性化に関する提言 —

取組結果と今後の展望・評価

多摩市学びあい育ちあい推進審議会

令和6年2月



## 目 次

・令和3年度提言書の評価について	2
1 アウトリーチ活動の充実	3
○公民館	
○図書館	
○ふるさと資料館	
2 生活課題・地域課題の共有	6
○公民館	
○図書館	
○ふるさと資料館	
3 人材育成・交流促進	9
○公民館	
○図書館	
○ふるさと資料館	
4 社会教育行政のネットワーク化	12
○公民館	
○図書館	
○ふるさと資料館	
5 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進	15
○公民館	
○図書館	
○ふるさと資料館	
・おわりに	18

## 令和3年度提言書の評価について

「多摩市におけるこれからの社会教育施設のあり方について」－社会教育施設利用の活性化に関する提言－は、令和4年2月に、第二次多摩市教育振興プランに定める「社会教育」と「家庭教育」の充実を実現するため、学びあい育ちあい推進審議会として公民館、図書館、ふるさと資料館を中心とした社会教育施設のあり方について提言したものである。

そして、提言から1年を経過したことを受けて、令和4年度の取り組み実績を検証し内部評価を行うものである。

評価は、多摩市学びあい育ちあい推進審議会で行った。

- ① アウトリーチ活動の充実
- ② 生活課題・地域課題の共有
- ③ 人材育成・交流促進
- ④ 社会教育行政のネットワーク化
- ⑤ DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

## 本評価の構成について

多摩市において、社会教育を展開している主な拠点としての公民館、図書館、ふるさと資料館の3施設について、各施設が令和4年度の取組実績と今後の展望及び「自己評価」を行い、それを多摩市学びあい育ちあい推進審議会が評価するとともに新たな課題や今後の対応について提案等を行った。

なお、多摩市学びあい育ちあい推進審議会の評価について、主旨の則り次のとおりの表示とした。

- ◎・・・今後、期待することや応援すること
- ・・・今後、要望・提案すること

### 評価達成率

A：100%～90%、B：89%～70%、C：69%～50%、D：49%以下

# 1 アウトリーチ活動の充実

## 公民館

### 【令和4年度取組結果と展望】 自己評価：B

#### （取組結果）

地域の拠点施設であるコミュニティセンターとの共催で、地域ごとのニーズに合った講座等を開催した。具体的には地域課題講座として、愛宕かえで館で「身体再発見講座 Part II」、貝取こぶし館で「キッズキッチン 作って食べて楽しもう!」、関・一つむぎ館、大栗川かるがも館、パルテノン多摩の3者との連携による「史跡巡りウォーキング」を実施した。

また、薬物乱用防止講座については、要望のあった市内中学校3校で実施した。なお、保護者や地域の方も生徒と一緒に学習できる機会としていたが、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、令和4年度については生徒のみ対象とした。

#### （今後の展望）

今年度もコミュニティセンターとの連携、薬物乱用防止講座についてはアウトリーチ事業を実施する予定である。次年度以降については、組織や事業を整理・統合する中で、アウトリーチ事業の充実をどのように図っていくか検討を進めたいと考えている。

### 【学びあい育ちあい推進審議会評価】 委員評価：B

◎コミュニティ活動が縮小したコロナ禍を経て見えてきた公民館の良いところや新たなコミュニティセンターとの連携事業など、さまざまな年代が参加できる事業の充実を今後も期待する。

◎地域ごとのニーズに合った講座をコミュニティセンターで実施できたことは、取組結果として良い評価になる。

◎薬物乱用防止講座について、生徒のみの対象ではあったが、実施できたことは評価できる。今後、要望校が増えるように更なる取り組みの推進に力を入れてほしい。

◎組織の見直しで、各種事業が増え、充実することを今後期待する。

■いくつかコミュニティセンターがあるが、どのような特徴やニーズがあるのかを明確にし、連携方法や優先順位を明確にしていくことが必要である。薬物乱用防止講座に関しても、なぜその講座が適切なのか、講座内容の検討、中学校の優先順位などを明確にすると今後の展望も考えやすい。

## 図 書 館

### 【令和4年度取組結果と展望】 自己評価：A

#### （取組結果）

令和5年7月に開館した中央図書館には、若年層を含む市民がグループで利用できるグループ研究室やラーニングコモンズを整備した。令和4年度は、グリナード永山（どんぐり広場）や旧富澤家、パルテノン多摩（ライブラリーラウンジ）などの図書館以外の場所でイベントを行い、若年層に向けた図書館の認知向上や来館のきっかけ作りに努めた。また、イベントを実施する際には、図書館ホームページの他、公式 SNS 等でも情報発信するとともに、令和4年度から「多摩市立図書館ニュース」（中学・高校生向け）を発行し、ニュースに利用者登録用紙を刷り込み、市立中学校、市内の都立高校の全生徒に配布したことで、新たな利用登録につながった。

図書館以外の場所での読書機会を作るため、児童館や学童クラブに図書館が選んだ本の「セット貸出」を継続実施するとともに、新たに保育園や幼稚園への「セット貸出」を企画するにあたり、利用しやすい制度とするために事前に実施したアンケートをもとに、セット数を決定し、令和5年度から実施できるように準備を進めた。

児童館への出張おはなし会を試行として実施し、会の中で読み聞かせの他に図書館の利用案内などを行ったことについて、実施後にアンケートを行った結果、参加者、施設、協力ボランティア団体のいずれからも好評であった。

障がい者サービスでは、これまで障害者福祉法に規定する視覚障害や肢体不自由の障害者手帳取得者や等級などで限定していた対象者を拡大し、視覚障害、発達障害、肢体不自由その他の障害により書籍等について視覚による表現の認識が困難な方や来館が困難な方を対象とした。これにより対面朗読、資料宅配サービス等の利用の幅を広げた。

日本語を母語としない方が利用できる英語の電子書籍を購入するとともに、多摩市国際交流センターと連携し、国際交流センターが発行する情報紙に図書館のサービスや外国語の本、電子書籍についての情報を定期的に掲載し利用促進を図った。

#### （今後の展望）

子どもから高齢者、そして障がいのあるなど様々な方が利用しやすい環境を中央図書館に整備することで、今まで利用の少なかった若年層の図書館利用も期待される。若年層の利用が拡大するようなイベント等の実施、学びや活動を支援できる取り組みを進めていく。

### 【学びあい育ちあい推進審議会評価】 委員評価：A

◎多摩市の「顔」となる図書館活動を引き続き期待する。

◎新しく開館した中央図書館や地域図書館とも、職員の対応も優しく心地良い場所となっている。さまざまな取り組みを老若男女が期待している中、サービスも充実していると考え

る。

◎街中の本屋さんが無くなっていく現在、本棚の前に立ち、本の背表紙を眺める楽しみを味わえる場所である。

◎「セット貸出」やシニア、障がい者サービス、日本語を母語としない市民への取り組みは、素晴らしい。また、中学・高校生へ配布した「多摩市立図書館ニュース」に利用者登録用紙を刷り込んだこともとても良い。今後の図書館のさらなる事業発展を期待する。

■中央図書館が開館したが、大きな予算がかかっている公共施設である。ぜひ、近隣市との広域連携や企業との公民連携によるアウトリーチ活動も検討してほしい。

## ふるさと資料館

### 【令和4年度取組結果と展望】 自己評価：B

#### （取組結果）

令和4年4月1日に開館した「多摩ふるさと資料館」では、市内小中学校への文化財資料の貸出、資料館・古民家における小学校社会科見学の受入れ対応、小学校に出向いてのお米の脱穀体験指導と解説等を通じ、学校のカリキュラムや副読本と連携した郷土の文化・歴史学習に積極的に取り組んだ。小学校の古民家見学の際には子ども用施設紹介パンフレットを配付し、土間や囲炉裏、部屋の配置や古民家の構造等を学芸員が解説した。

資料館の事業では、令和4年8月に小学生を対象とした展示室解説・収蔵庫の見学イベントを開催するとともに、令和4年11月には特別展示及び展示資料の解説、令和5年2月には展示室5に展示している消防に関する資料の解説を実施した。

#### （今後の展望）

今後も市内小中学校や市民のニーズの把握に努め、アウトリーチ事業の充実を図っていく。

### 【学びあい育ちあい推進審議会評価】 委員評価：B

◎市民に足を運んでもらえる講座や文化に触れる機会など他との連携を図り、ふるさと資料館の良さや文化財を知ってもらうための機会をつくることを期待する。

■多摩市の変遷とその変遷のトリガーになったことなどの説明とともに、多摩市の課題も児童生徒に伝え、これからの多摩市の在り方を一緒に考えていく場になることを期待する。

■市内小中学校との活動は良くやっているが、さらなる小中学校への見学体験や貸し出しなど積極的に進めてほしい。一方、未だ一般の大人への周知は不十分だと考える。

## 2 生活課題・地域課題の共有

### 公 民 館

#### 【令和4年度取組結果と展望】 自己評価：A

##### （取組結果）

地域・生活課題を考える事業として、「ベルブゼミ『聞き書きボランティア入門講座』」「ベルブゼミ『あなたは最期をどんなふうに過ごしたいですか？』」を実施した。

また、高齢者の情報格差の問題解消に向け、「公民館スマホ教室 入門・体験編」「スマホサロン」、東京都と共催で「シニアのためのスマホ相談会」を実施し、好評を博している。

さらに子育て世代の支援として「子育て応援講座」「家族について考える講座」「保育室開放デーなどの幼児と保護者を対象とする事業」、小学生向けの講座や体験事業、家庭教育に関する事業など様々な側面から生活・地域課題の解決に資する事業を展開した。

大学との連携では、現代社会を取り巻く変化に即応したテーマで、市内5大学と連携し「地球大学院」を実施した。

##### （今後の展望）

今後も時機をとらえたテーマ設定により、社会や自身を取り巻く様々な生活課題、地域課題についてフレキシブルに対応しながら事業を展開していきたいと考えている。

なお、地球大学院については、今後の進め方を含め目的や実施する際の大学のメリット、テーマ設定などに一部ご意見もあることから、来年度以降は事業展開の再考が必要であると考えている。

#### 【学びあい育ちあい推進審議会評価】 委員評価：A

◎「スマホ教室」やベルブゼミ「あなたは最期をどんなふうに過ごしたいですか？」の実施など、攻めていると感じる取り組みが目をつけた。今後、市内5大学と連携した「地球大学院」のさらなる展開にも期待する。

◎小学生向けの事業だけではなく、大学生など次世代の若者たちにアプローチすることで次世代へつなげられる事業展開が期待できる。

■魅力的な活動にするためには、課題を解決するために世代間をつなぐことや、大学の講座を受講するだけでなく、大学の研究対象としての地域をつなぐといった活動ができることだと考える。

■それぞれその地域との繋がりや特色がある市内各所のコミュニティセンターとの連携を進めてもらいたい。

## 図 書 館

### 【令和4年度取組結果と展望】 自己評価：A

#### （取組結果）

令和4年度は認知症や防災など地域課題について市民に情報提供するため各課と連携した企画展示を17課と32テーマで実施するとともに、図書館に来館しなくても展示した本がわかるように図書館ホームページにブックリストやパスファイダー（調べ案内）を掲載した。連携企画展示では児童虐待やひきこもり、気候変動など喫緊の課題となっているテーマを取り上げ情報提供に努め、展示の際はテーマごとにSDGsマークをポスターに表示している。

また、高齢を理由に図書館から遠のいている高齢者やその家族を対象とした図書館カフェを医療関係者や市内の大学と連携し実施した。

#### （今後の展望）

引き続き各課と連携した企画展示、パスファイダー等の作成により、地域課題について市民が必要としている情報の収集、調査研究が効果的に行えるよう支援していく。また、高齢者を対象に興味がある分野の本を図書館で探し、感想を述べあう図書館カフェを令和5年度も実施する。

### 【学びあい育ちあい推進審議会評価】 委員評価：A

- ◎「情報の宝庫である」というアピールと情報を活用しやすくなる環境づくりをしていると感じる。
- ◎縦のつながりを意識しての事業展開について、今後の発展に期待する。
- ◎大学生との関りや高校生との取り組みにも期待する。

■中央図書館まで行けない地域の高齢者のために、地域図書館の活用にも継続して取り組まれない。

## ふ る さ と 資 料 館

### 【令和4年度取組結果と展望】 自己評価：B

#### （取組結果）

資料館では、来館者に多摩市の歴史やニュータウン開発前・開発初期の生活を実感していただく展示・情報発信に取り組んだ。資料館の展示室1では、多摩市の歴史の大きな流れを映像や写真等を使って紹介し、展示室3ではニュータウン開発前の古民家を一部復元し、当

時の生活用具を展示することで古民家での生活を実感できる空間を提供している。さらに、展示室 3 では古い家電や生活用具等も展示し、生活様式の移り変わりを実感していただけるように工夫した。展示室 4 ではニュータウン開発以前、多摩村の主な生業であった農業・養蚕・炭焼きに使用していた道具の実物を展示・紹介するとともに、小学校の社会科見学の際には昔の道具（実物）に触れて学べる機会を提供した。

#### （今後の展望）

学校教育だけでなく地域の方々と地域の歴史・文化財について共有・学習機会を提供する場を設けることで、生活の中で地域の歴史を感じられる機会の創出に取り組んでいく。

#### 【学びあい育ちあい推進審議会評価】 委員評価：B

◎ふるさと資料館の取り組みについて、今後の事業展開に期待する。

- 歴史を感じる観点として、生活課題・地域課題を解決してきた歴史を学ぶ場であるという捉え方をすると展示方法などが変わってくるかもしれない。歴史から学べることがたくさんあると考える。
- パルテノン多摩の「市民学芸員」との連携、あるいは「市民委員」のような制度で、もっと地域・市民の間に入っていくことを企画していただきたい。
- ワクワクする展示や旧小泉家などがある「ふるさと資料館」のことを、通りがかりの人にも目に付くように多方面でPRする必要がある。埋蔵センターのように、ゲーム感覚のクイズや体験、また展示物の並べ方などにももう一工夫が必要だと感じる。

### 3 人材育成・交流促進

#### 公民館

##### 【令和4年度取組結果と展望】 自己評価：C

###### （取組結果）

交流促進については、永山フェスティバルやV I T Aふれあいまつり、地域のイベントに協力することにより、市民団体や施設間の連携を通して継続した交流を行っている。

また、演劇フェスティバルは参加劇団がそれぞれ互いの上演に協力し、昨年度から中学校の主権者教育に劇団の壁を越えて協力するなど地域貢献も進めている。来年度は合同公演も計画しており、団体間の交流はより深まっていると考えている。

一方提言で指摘のあった「学びの活動をコーディネートする中核となる人材の育成」については、どのような手法で人材を育成していくか検討の途上にある。

###### （今後の展望）

団体や地域との交流促進は引き続き公民館が中心となって進めていきたいと考えている。一方、一部の事業における実行委員会では、担い手の高齢化という課題が顕著になってきており、事業の存続や進め方、公民館の支援の在り方が今後の課題となっている。

##### 【学びあい育ちあい推進審議会評価】 委員評価：B

◎人材育成については課題もみられるが、地域のイベントや演劇フェスティバルの団体間の交流など概ね達成している。

◎「永山フェスティバル」や「地域ふれあいフォーラム」は、地域を巻き込み、しっかりと地域に貢献できている。講座についても単発開催で終わらず、アフターグループを続々と立ち上げていく手腕はすばらしい。

◎‘担い手の高齢化’色々なところで聞かれる言葉だが、出来る範囲で事業を続け、そこに一人でも二人でも新しい人が参加してくることを期待する。

■中間支援的な方々の育成を頻く頻くと進めてほしい。

■どんな課題からどういう人たちを交流させるといいのかを考えていくと、今後の展望が明確になってくる。時代に合わせて変化はしていくが、今後の多摩市の在り方を考えるうえで大事にしていきたいことは何かを明確にすることで「人材育成」についても考えやすくなる。

■検討途上の中核の人材については、持続できる環境や活動などの周知、楽しさをどんどん発信していくことで「つながり」が生まれると思う。

## 図書館

### 【令和4年度取組結果と展望】 自己評価：A

#### （取組結果）

読み聞かせボランティアや音訳者や点訳者の技術向上のため、研修や講座を実施して、個々の技術の向上を図った。また、令和5年7月に開館した中央図書館に市民が自由に話し合える場やグループ学習ができる場として活動室やラーニングコモンズを整備した。

外国語での読み聞かせを取り入れたおはなし会や市内の小学2年生を対象とした図書館訪問の際に手話での絵本の読み聞かせをするなど各館でプログラムを工夫して実践した。

本館閉館・中央図書館開館イベントのアイデアを市民から広く募集し、令和5年度に市民と協働で実施できるように検討を進めた。

#### （今後の展望）

読み聞かせや障がい者サービスを中心としたボランティアとの協働のほか、図書や図書館に関連したイベントなども市民と企画し多様な活動を共に行えるよう、引き続き取り組んでいく。

### 【学びあい育ちあい推進審議会評価】 委員評価：A

◎先を見通して考えられている。これは図書館のありたい姿がシャープだからだと感じる。

◎新しい中央図書館の活動室等の「本を読む」以外の施設活用で、各種交流が出来ることを期待している。

■中央図書館は、中核的図書館であり、もっと企業や企業の従業員との連携を深めていってほしい。

## ふるさと資料館

### 【令和4年度取組み結果と展望】 自己評価：B

#### （取組結果）

公益財団法人多摩市文化振興財団の事業「メカイ作りワークショップ」開催にあたり、資料館の多目的室を会場として貸し出すとともに、財団の学芸員が多摩ふるさと資料館の展示室を解説する機会を作った。令和5年3月16日付で「南多摩のメカイ製作技術」が「東京都指定無形民俗文化財（民俗技術）」として指定され、市内で活動する「多摩めかいの会」が保存団体として認定されたことから、令和5年秋に「多摩めかいの会」との共催

による「めかいづくり講座」を開催し、多摩のめかいを将来に継承する取り組みを実施する。

多摩市文化団体連合の加入団体による文化庁補助事業「伝統文化親子教室」の開催支援や、東京都埋蔵文化財センターとの共催による講演会を開催するとともに、令和5年11月には都立桜ヶ丘公園との共催によるコンサートの開催等も予定している。

#### **(今後の展望)**

関係団体・機関と更に連携し、人材育成・交流につながる取り組みを展開する。また、多摩市文化振興財団が養成している「市民学芸員」との連携を図り、文化財に関わる人材育成・交流促進につながる取り組みを検討する。

#### **【学びあい育ちあい推進審議会評価】 委員評価：B**

- 八王子市とともに多摩市の文化として「メカイ」をもっと打ち出す活動をしてもいいのではないかと考える。「メカイ」を取り入れた生活を紹介する活動を行う人材の育成や交流活動などを考えても良い。
- 学芸員の活動強化やパルテノン多摩の「市民学芸員」との連携、または同じような「市民委員」の制度でもっと地域・市民の間に入っていく企画を進めてもらいたい。
- 文化団体との連携を図りながら、若い世代への興味関心につなげてほしい。

## 4 社会教育行政のネットワーク化

### 公民館

#### 【令和4年度取組結果と展望】 自己評価：A

##### （取組結果）

「多摩市・日野市広域連携事業協議会」において、2市が連携して、ICTを活用した「多摩学びテラス」を以下の内容で実施した。

令和4年度は多摩地域の市民が参加できる市民大学講座として「地球大学院」「ひの市民大学」にオンライン参加できる仕組みを整備した。また、市民がICTに親しみながら暮らしを豊かにする機会の醸成を図る取組みとして「子どもプログラミング講座」を両市で開催した。さらに、多摩地域の社会的資源を活用した世代交流イベントとして「多摩の丘陵地と史跡を歩こう」を開催し、ワークショップなどを通じて両市民が互いの生活圏を超え多摩地域の自然や歴史を知り交流する機会を提供した。

##### （今後の展望）

本事業は、多摩島しょ広域連携活動助成金事業として令和3年度から3カ年の期間で実施することとしており、本年度で同事業は終了するが、次年度以降も事業連携を続け、稲城市にも働きかけ3市で事業連携を進めることができないか検討を進めていく予定である。

#### 【学びあい育ちあい推進審議会評価】 委員評価：A

◎「多摩市・日野市広域連携事業協議会」において、2市が連携した講座やワークショップを通じた交流は、多摩地域を知ることができる良い取り組みである。今後、稲城市とも連携し、この事業が広がっていくことを期待する。また、コロナ禍以降オンラインで参加できる講座が増えたことはとても良い。

■大学と地域の連携、大学生が住みやすい街として公民館ができる活動を考えてもらいたい。

### 図書館

#### 【令和4年度取組結果と展望】 自己評価：A

##### （取組結果）

公民館やパルテノン多摩のイベントと連携し、関連した本の企画展示や出張展示を実施し

た。多摩市デジタルアーカイブの活用方法のパンフレットを作成し、学校図書館研修会、ふるさと資料館、パルテノン多摩ミュージアム等で配布した。また、ふるさと資料館の展示室に多摩市デジタルアーカイブの案内（二次元コード付）を掲示し、来館者が展示物を見ながらアーカイブでの画像や動画解説を聞き、より深く鑑賞できる取り組みを進めた。

高齢者を対象とした図書館カフェを実施するにあたり、福祉や介護について学んでいる学生ボランティアに参加してもらい、実際に高齢者と関わる機会を提供することで学生にもメリットがあるイベントとすることができた。

多摩市国際交流センターと連携し、国際交流センターが発行する情報紙に図書館のサービスや外国語の本、電子書籍についての情報を掲載し利用促進を図った。

#### （今後の展望）

引き続き、公民館やパルテノン多摩と連携した企画展示の実施やデジタルアーカイブの利用促進を図る。また多摩市在住の日本語を母語としない方に図書館を利用してもらうため国際交流センターを通じて利用促進を図っていく。

### 【学びあい育ちあい推進審議会評価】 委員評価：A

◎出張展示やデジタルアーカイブは、素晴らしい。また、図書館カフェの実施について、福祉や介護を学んでいる学生ボランティアが関わることはとても良い。

## ふるさと資料館

### 【令和4年度取組結果と展望】 自己評価：B

#### （取組結果）

図書館で取り組んでいる「多摩市デジタルアーカイブ」と連携し、多摩市の指定文化財や文化財施設・資料等を、いつでもどこでも、解説とともにご覧いただける環境を整備した。デジタルアーカイブの閲覧によって多摩市の文化財等に興味を持った方が、多摩ふるさと資料館に来館し、実物をご覧いただきながら「多摩市デジタルアーカイブ」の解説を聞いていただくことで、より一層理解を深めていただけるような展示に努めている。

市民に地域の文化財への興味を持っていただき、理解を進めていただくことを目的とした講演会「多摩市の古墳探訪」を東京都埋蔵文化財センターと共催で開催した。

多摩ふるさと資料館と併設の多摩市立市民活動・交流センターとの共催により、令和4年4月にオープン記念イベント、令和4年11月に「キタカイフェスタ」、令和5年3月に「きたかい防災フェスタ」を開催した。各イベントでは市民活動交流センターの利用者や地域住民も多数来場し、多摩ふるさと資料館を見学する機会を設けた。

多摩市文化振興財団の事業「メカイ作りワークショップ」開催にあたり、資料館の多目

的室を会場として貸し出すとともに、財団の学芸員が資料館の展示室を解説する機会を作った。また、令和5年8月～9月には多摩ふるさと資料館企画展示に合わせ、パルテノン多摩において連携展示を行った。

**(今後の展望)**

多摩市文化振興財団や市民活動・交流センター、庁内関係課・関係機関との連携事業の充実を図るとともに、多摩市文化振興財団が実施している市民学芸員との連携による取り組みについても検討する。

**【学びあい育ちあい推進審議会評価】 委員評価：A**

- ◎コンテンツのある場とのネットワーク化が推進されている。
- ◎多摩市立市民活動・交流センターとの共催イベントによって、多くの市民がふるさと資料館に来場するきっかけとなっている。実物を見た時に興味を持った方が「多摩市デジタルアーカイブ」でより理解を深める機会を作ることができた。
- ◎東京都埋蔵文化財センターやパルテノンとの連携もすばらしい。

## 5 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

### 公民館

#### 【令和4年度取組結果と展望】 自己評価：B

##### （取組結果）

I T 機器等の活用という点では、前項で記載のとおり、多摩島しょ広域連携活動助成金事業(たま学びテラス)において、オンライン配信による事業を展開した。

また、コロナ禍での事業の工夫として、YouTube での音楽や演劇の配信なども行い、演フェスラジオについては現在も継続してラジオドラマを定期的に配信している。

また、施設利用料金の電子決済については次年度からの実施に向け調整を進めている。

##### （今後の展望）

多摩島しょ広域連携活動助成金事業で使用した I C T 機器については、同事業終了後公民館に譲渡されることから、積極的な活用と活用拡大について検討を進めていく。

#### 【学びあい育ちあい推進審議会評価】 委員評価：B

◎YouTube での音楽や演劇配信、演フェスラジオは今後もっと開拓の可能性が広がる分野だと思われる。場や時間を越えた情報提供を強化することは、学習とともに音楽や演劇などの観覧の機会を増やすことにもつながっている。

◎施設利用料金の電子決済化も進めてほしい。

■助成後の事業について、無駄にならないようにしっかりと検討してほしい。

■高齢者など I C T 機器に不慣れな人にも浸透させていくには、ある部署・特定の機関だけでなく、多くの部署で色々な機会に ICT 機器等に触れ慣れる場面を作っていくことが必要。

### 図書館

#### 【令和4年度取組結果と展望】 自己評価：A

##### （取組結果）

ホームページからレファレンスの受付ができるように令和5年度からの実施を目途に検討を進めた。

「多摩市電子図書館・多摩市デジタルアーカイブ利用説明会」を図書館本館で毎月1回実

施した。また図書館以外の場所で実施するイベントでチラシ配布や画面を提示し利用ガイダンスを行った。

たましん地域文化財団主催「多摩の歴史講座」にて「デジタルアーカイブで資料を見る」をテーマとして講座を行い、多摩地域の歴史研究に多摩市デジタルアーカイブを活用してもらえよう普及に努めた。

市内小・中学校の教職員向けに図書館の利用方法や調べ学習の際の利用方法、電子図書館の活用方法を掲載した利用案内を全校にメールで配信した。

市主催「多摩市子ども被爆地派遣事業」では、小中学生を対象に派遣前の事前活動の中で、本やデータベースを利用しての能動的探究活動を行った。

中央図書館の開館に向け、図書館で利用できるオンラインデータベースの充実を図るため、雑誌や新聞情報、経済情報、音楽情報などのデータベースを新たに選定し、令和5年度から利用できるように準備し、音楽情報データベースは市民のパソコンからの利用ができるものとした。

#### （今後の展望）

令和5年度中に図書館ホームページからレファレンスが受け付けできる環境を整えとともに図書館で利用できるオンラインデータベースの充実を図り、利用促進を図る。また引き続き「多摩市電子図書館」、「多摩市デジタルアーカイブ」の利用促進を図っていく。

### 【学びあい育ちあい推進審議会評価】 委員評価：A

■高齢者などICT機器に不慣れな人にも浸透させていくには、ある部署・特定の機関だけでなく、多くの部署で色々な機会にICT機器等に触れ慣れる場面を作っていくことが必要。

## ふるさと資料館

### 【令和4年度取組結果と展望】 自己評価：B

#### （取組結果）

図書館の取り組みである「多摩市デジタルアーカイブ」では、多摩市の歴史、魅力を発信するため、『多摩市史』、市指定有形文化財「調布玉川惣画図」等の貴重な資料、多摩の郷土写真や小中学校社会科副読本、『多摩市市制施行50周年記念誌』などを公開している。

デジタルアーカイブでは、市指定有形文化財「旧多摩聖蹟記念館」、古民家「旧加藤家」等を立体映像で解説付きで紹介し、各施設の中を見学しているような形で見るができる。また、多摩市内の発掘調査で出土した主な縄文土器5点を3D画像で公開している。文様の細かい部分、展示では見ることで見えない裏側や内側などを拡大して閲覧でき、さらに土器ごとの解説動画（1分程度）も見ることができることで、特徴などをわかりやす

く理解することができる。

昭和 55（1980）年から令和 3（2021）年の 41 年間撮影を続けてきた記録映像を後世に継承するため、令和 5 年度に映像資料のデジタル化と整理作業を実施している。そして、いつでも、どこにいても、誰でも文化財や多摩市の歴史に触れられる機会を提供できるよう取り組みを進めていく。

#### （今後の展望）

令和 6 年度以降、文化財の記録映像を配信可能な形に整理し、多摩市公式 YouTube チャンネルへの投稿や図書館デジタルアーカイブ等で公開し、充実を図るよう検討する。

#### 【学びあい育ちあい推進審議会評価】 委員評価：B

◎デジタルアーカイブで、旧多摩聖蹟記念館や旧加藤家の中を見学しているような形で映像を見ることができることや触ると劣化のおそれがある土器の裏側までしっかり見ることができることはすばらしい。

◎昭和 55 年から撮影を続けてきた記録映像のデジタル化を求める。

■コンテンツをデジタル化すると、活用できる人、機会を増幅させていくことにつながると思う。

■高齢者など ICT 機器に不慣れな人にも浸透させていくには、ある部署・特定の機関だけでなく、多くの部署で色々な機会に ICT 機器等に触れ慣れる場面を作っていくことが必要。

おわりに

多摩市学びあい育ちあい推進審議会は、前身である「社会教育委員の会議」や「公民館運営審議会」の統合により設置され今年で12年目を迎えました。

平成24年4月の審議会設置からこれまで間、平成27年度、平成29年度、令和3年度と3回に渡って教育委員会に提言を行ってきましたが、平成27年度と平成29年度の提言では審議会として評価・検証を行って来なかった事を踏まえ、今回は令和3年度に教育委員会に行った提言に対して、その取組結果の確認と評価、そして今後の展望を示すことで審議会として初めて提言に対するPDCAサイクルを取り入れたものです。

令和3年度に行った提言は、まさにポストコロナ時代の幕開けを告げるものとなりました。コロナ禍で対面活動は中止、実施できても大きな制約を受けるなど思うような活動や学習ができない状態にありました。ただ、その中で日常生活の中にある大切な学びや、他者との関わりの中でこそ感じる事が出来る楽しさがあることを実感する時間でもあったと思います。

今、私たちはコロナ禍を通じて経験し、学んだことをしっかりと整理し、ポストコロナ時代に向けた取り組みに活かしていくべきだと考えます。

令和3年度に提言を行った際、ふるさと資料館（令和4年4月）、中央図書館（令和5年7月）が相次いでオープンする事が予定されていました。そこで本審議会は多摩市の新しい社会教育施設と社会教育の中心的役割を担っている公民館の各施設においてサービスの向上が図られる事と合わせ、それぞれの施設が連携する事でより大きな効果が生み出せると考え、主にソフト面を中心に以下について提言を行いました。

1. アウトリーチ活動の充実
2. 生活課題・地域課題の共有
3. 人材育成・交流促進
4. 社会教育行政のネットワーク化
5. DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

そして提言に対して各施設がどのように事業に取り組み、その結果として何を実現し、どこに課題が残っているかを検証するとともに、今後の取り組みについて「展望」として更なる充実が図られるよう審議会として意見を述べました。

社会教育は「館」という建物の中だけで行われるわけではなく、さまざまな場所で、誰でも、いつでも行われるものであること。そして、今回の「取組結果と今後の展望・評価」が、公民館、図書館、ふるさと資料館に止まらず、他の社会教育施設においても活かされること

を期待しています。

最後になりますが、第6期の審議会で「取組結果と今後の展望・評価」をまとめ上げることができたのは、審議会委員の皆さんの積極的な協力があったことです。さらに、審議会の事務局の支援とご努力があったのもであり、この場を借りて会長として心よりお礼と感謝を申し上げますとともに、大きく時代が転換していく中で、この「取組結果と今後の展望・評価」が多摩市の社会教育や生涯学習に対するより広い視点からの議論や検討の一助になれば幸いです。

令和6年2月

多摩市学びあい育ちあい推進審議会

会長 炭谷晃男